



夏の静かな朝 霧島市国分春山

KAMADA
TSUSHIN
第165号

羅針

鎌田建設株式会社

社長 鎌田善政

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」

この言葉は、教育者、森信三先生のお言葉ですが、今回このことを身をもって感じることとなりました。霧島商工会議所創立二十周年記念講演として、二〇一五年にノーベル生理学・医学賞を受賞されました、大村智先生にお話をして頂きました。先生は山梨大学を卒業後、東京都立の墨田工業高校の夜間クラスを教えておられた時期がありました。その時の生徒さんの中に、昼間町工場で働き、いつも遅刻ぎりぎり駆けつけて、一生懸命勉強をしていた生徒さんがいました。試験の時鉛筆を握る指に黒い油の跡が見え、爪の先は黒く、シャツには汗と油が浮かびあがっている様子を見て、自分もこれではいけない、さらに努力して勉強していかなければならないと思われたそうです。今回ノーベル賞受賞時には、その時の生徒さん達もお祝いに駆けつけて下さったそうです。身の震える思いがする感動のお話でした。

先生に記念の書をお願いしたら、「至誠測怛(しせいそくだつ) ※誠を尽くしていたわりの心をもって人に接する。そうすれば必ず道は開ける」と書いて下さいました。また、私の部屋には柏木白光先生に書いて頂きました、鍵山秀三郎先生のお言葉、「唱道の人多けれど行動の人少なし」と書かれた書がありますが、大村先生も「実践躬行(じっせんきゆうこう) ※口先だけでなく、自らすすんで実践する」ということをおっしゃいました。

今回大変貴重なお話を聞きし、私も初心に戻り、一生懸命努力して参ろうと決意した次第です。